

震災復興 まちづくり訓練 ニュース

【発行】 港区 高輪地区総合支所 まちづくり課
まちづくり係 電話：03-5421-7615

平成30年10月

第1回訓練（ガイダンス）を 開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成30年10月2日（火）、ゆかしの杜・区民協働スペースで第1回が行われました。地域の方々、区職員、専門家、計46名が集まり、市古太郎先生（首都大学東京教授）、土井成三さん（北口・高木まちづくり協議会（西宮北口駅北東地区）元会長）のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。（裏面をご覧ください）



テーマ

第2回 開催案内

震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成30年11月3日（土） 9:30~12:30

場所：ゆかしの杜6階 区民協働スペース

歩きやすい服装でお越し下さい。
雨天の場合も実施します。

内容（予定）：

- 震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。
- 復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。

復興のまちづくりに備えることの大切さ ~基調講演より~

「現代都市の震災と復興に備える重要性」（首都大学東京 市古先生）



なぜ復興に備える必要があるのか、東京で起こり得る地震のイメージや、阪神・淡路大震災の時の地震後のまち、仮設住宅での生活の様子などの映像を見ながら、イメージを膨らませました。

次に、冊子「東京くらし防災」をみながら、この訓練を通して「生活再建に向けて」（p158）をより深く考えていくことが大事だということをお話いただきました。



「復興のまちづくりに備えることの大切さ~阪神・淡路大震災の経験から~」（北口・高木まちづくり協議会（西宮北口駅北東地区）元会長 土井さん）

大震災でどのような被害を受け、まちづくり協議会の立ち上げや話し合いにどのような苦労があったのか、お話いただきました。地域の皆さんがある程度顔見知りになっておいてほしい、行政による支援体制を事前にしっかり作っておいてほしい、といったメッセージをいただきました。



Q コンサルタントの方は、どのような経緯で入ってこられたのでしょうか？

A 地震の前に密集したまちの調査をしていて、まちの状況をよく知っている方が、行政から依頼されて、入っていただきました。

Q イベントで顔見知りになるというお話がありましたが、どのようなイベントをしたのですか？

A 春祭りや秋祭り、夏休みのラジオ体操、餅つき大会、防災イベントでは緊急貯水槽の水で非常食を食べてみたりしています。

Q 土地区画整理事業で復興のまちづくりを進めていくために、経済的な問題はどのように大変だったのでしょうか？

A 事業費や負担は精密な計算をしないと分からないものです。全体のグランドデザインはみんなで検討し、個々の権利関係は行政が個別に詰めていきました。

Q 借地や借家の方は、まちづくりの検討に参加できたのでしょうか？

A 借家の方も入居できる住宅を建設したり、借地の権利を精算して共同建替えをしたりしました。借地の方は割と参加されたと思います。

Q 今、まちづくり協議会はどうしているのですか？

A 休眠中ですが、その活動を契機に公園管理委員会で様々なイベントなどを行っています。

Q 成功したことと、うまくいかなかったことは？

A 例えば道路では、幅4mにした所で6mの方が良かったかも、といった話があります。昔の面影が全くないのが難しいところだと思います。

復興問題トレーニングをやってみました ～被災後、どんなことに困るでしょうか？～

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、4つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を2つ決めました。



その家族が、震災1週間後、1か月後、3～6か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。

1班

「古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦と猫」で「全壊」を選びました。1週間後は、避難所にいますが、薬や入れ歯、トイレの我慢から健康の問題、猫のいる場所等の心配事が挙げられました。その後は頼れるところがある方は移り、仮設住宅ができれば入居しますが、猫も一緒に入居できるものが必要という話がありました。

次に、「マンション住まいの4人家族」で「一部損壊」にしました。共通な課題として先立つお金が必要ということ、生活再建につながる「り災証明」の手続きがどうなるのかが心配、両親が働いている家族の小さな子どもをどう対応できるのか、といった課題が出されました。



2班

「戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦の世帯の家屋」が「半壊」の被害を受けたケースについて話し合いました。自宅は構造的に安全な場合でも、被災後の災害弱者のケアが行き届かないことが課題としてあげられました。

次に、マンションのお住まいのかたで、「一部損壊」のケースについて、直後には、電気（エレベーター）や水の問題があることや、単身者用の賃貸マンションでは、住民のコミュニティが希薄なことが課題としてあげられました。

最後に、町会の役割について話し合われ、日頃の防災協議会などの活動を災害時に活かすことが重要だという意見がありました。



3班

「大規模半壊」の「古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦と猫」を選びました。1週間後は避難所と自宅を往復していて、ゆかしの杜かいききプラザで生活し、食事や水、薬の確保、トイレ、猫のことを心配していると考えました。1か月後には娘の家に移り、家を修理するかどうか、売るにしても土地の価格が気になると考えました。3～6か月後は仮設住宅か高齢者住宅に居り、悪いデベロッパーの心配や、助成制度等が分からず専門家に相談したいが誰にしたら良いか分からない、といった心配事を想像しました。

次に、「戸建住宅に住む3世代家族」とし、大家族で安心な反面、大規模半壊だと修繕して住み続けるのは難しい等の意見が出されました。



4班

「80歳前後の高齢者二人と猫」、住宅は「一部損壊」のケースです。電気・水道が使えないので、直後は避難所に行きたいけど、うまく避難所に適応できるかどうか、ネコが避難所やキャリーケースで大丈夫かが気になります。1か月後、物流が回復していれば、ふだんの生活に戻りたいが、断水なので給水場所から運べるか、薬が入手できるか、6か月後は住宅の修理をどうするか心配です。

次に、「マンションの4人家族」、「無被害」、こういうケースは多いはず。建物が大丈夫でもトイレや水の確保や家の片付けなど、家族やマンションぐるみの問題がありそうです。このまちは新しい建物が多く地盤もよいので、どう生活を維持するかなどまちの特性に合わせて考えたいということでした。



発表を聞いて～本日の購評～

★土井さんより

4回の訓練で終わらないで、何か小さなことでいいので続けていってほしいと思います。

★市古先生より

被災者の方への調査で、「人のつながり」が復興の実感に影響を与えるという結果があります。復興とは、震災によって大きな変容を迫られた社会の中で、被災者が生活の変化にうまく適応するための営みです。このような復興に取り組めるよう、この訓練を続けてほしいと思います。

震災復興まちづくり訓練 ニュース

【発行】 港区 高輪地区総合支所 まちづくり課
まちづくり係 電話：03-5421-7615

平成30年11月

第2回訓練

まちを歩いて復興の課題と方針を考えました！

「震災復興まちづくり訓練」は、一般的な防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成30年11月3日(土)、ゆかしの杜・区民協働スペースで第2回が行われました。地域の方々、区職員、専門家、計39名が集まり、まちを歩いて、大震災に見舞われた場合の被災後の生活などもイメージしながら、復興の課題などを考えてみました。



(2~4ページをご覧ください)

テーマ

第3回 開催案内

被災後の住まい・生活の確保や、
まちの復興方針づくりを体験しよう！

日時：平成30年12月8日(土) 9:30~12:30

場所：ゆかしの杜6階 区民協働スペース

内容(予定)：

- 港区震災復興マニュアルの一般的な復興のすすめ方を紹介します。
- 第2回で出されたご意見をもとにした、復興に係るいくつかのテーマごとに班をつくって話し合います。白金台4丁目のまちの復興のアイデアを出し合ひましょう！

ビデオ「幸せを運ぼう」 ~阪神・淡路大震災後の生活の様子~



- ・まちを歩く前に、日常のまちがどう変わり、どのような生活の苦労があったのか、被災の様子や水の配給の様子、避難所・仮設住宅・兵庫県外に避難した方の生活の映像を見て、被災後の生活を想像してみました。
- ・阪神・淡路大震災以降、さまざまな対策が進んできましたが、被害を受けた後は、まちの復興が進むまで避難生活が続くことを共有しました。

まち歩き・点検

- ・班に分かれて、役割を決めて、点検項目と概ねのルートを確認してからスタートしました。
- ★分担した役割
班長、副班長、カメラ係、記録係、発見係



1班

4丁目西側を歩きました！

ビル、マンションや新しい住宅も多く、比較的地震に強い市街地に見えましたが、部分的に古い石垣や擁壁、亀裂があるブロック塀、上空の工事中の足場や絡み合った電線、老朽化した空き家など問題点も見られました。また、持主が地区外にいるアパートや空き家では、手入れが行き届いていない様子も見られました。

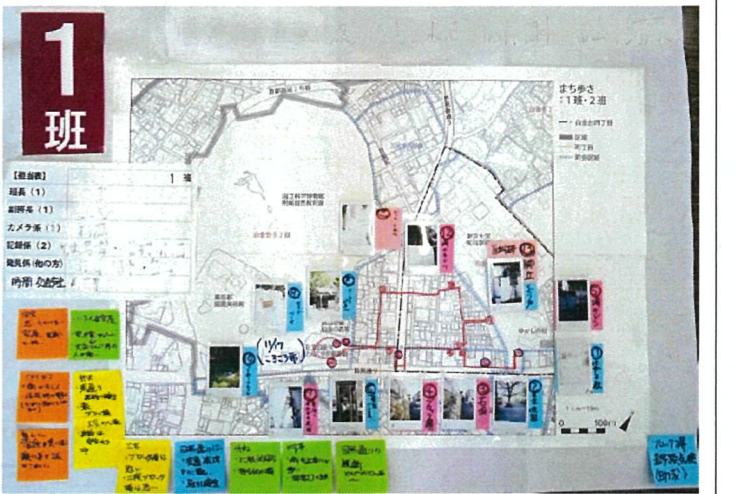
一方、白金台どんぐり児童遊園は11月に地域や利用者主体のイベントがあるなど、活発に利用されており、被災後にも役立つ空間になりそうです。その他、ゆかしの杜や白台児童遊園も活用できそうです。

行き止まり奥に医科研敷地との非常出入口がありますが、健常者が通行できるだけのでもったいない、プラチナ通り~高速下までの目黒通りには横断箇所が少ないなどの指摘もありました。震災後は、道路閉塞対策、ライフライン停止に伴う生活確保、地域での協力体制づくりなどが課題になりそうだと、というまとめになりました。

古い石垣→



←活発に利用されている白金台どんぐり児童遊園



2班

4丁目西側を歩きました！

消防車が進入できない狭い道、老朽化したブロック塀や木造の建物も多く、地震や火災の時に、避難が困難になることが予想されるエリアです。特に医科研の境界が行き止まりになっている道が多いことが分かりました。

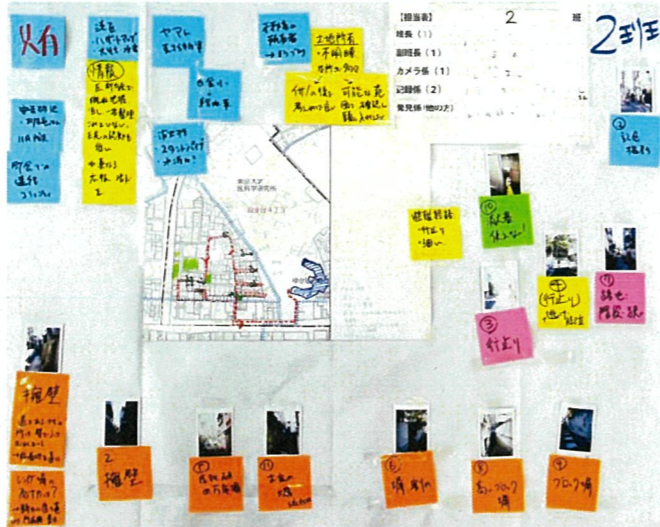
避難のしやすさを向上させるために「地域での防災訓練の実施」「避難通路の安全性の確保（建物の耐震化）」「初期消火のための設備」「古いブロック塀の改善」「電柱の移設や地中化」「擁壁の補強」「医科研の災害時対応」などの必要性を求める意見がありました。

また、復興時のポイントとして「自治会のコミュニティを中心とした体制づくりと、情報の周知」「事前の災害時のシミュレーション」「復興時に地域の資源（レンガの塀、坂や階段、歩行者優先の路地など）を大切に計画」などが挙げられました。

東大医科研側へ避難することのできる場所→



←住宅街の中に残るレンガの擁壁



4班

4丁目東側を歩きました！

参加者が住んでいる場所を手掛かりに東側のエリアを回りました。心配な場所に袋小路、崖、ブロック塀、クランク状に曲がった道があげられました。特に西光寺の墓地横の通りの崖と袋小路が危ないという意見がありました。

防災・復興資源には、公衆電話・ポストがある三光坂、防火水槽・かまどベンチがある白金台四丁目児童遊園が挙げられました。緊急時に逃げられるよう幼稚園や聖心女子学院、お寺に事前に相談しておいてはどうか、との意見がありました。

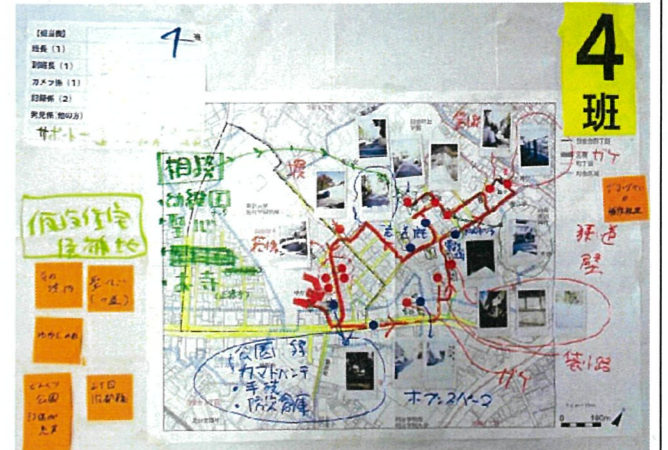
仮設住宅建設候補地として、寺の境内、聖心女子学院へのアプローチ、ゆかしの杜、白金台どんぐり児童遊園があげられました。

復興の困難度では、個人については全体的に「大変心配である」との答えが多く、まちについて、被災直後は心配事が多く、時間経過につれ少なくなっている答えとなっていました。



←墓地横の大きな崖

活発に意見が交わされました→



3班

4丁目東側を歩きました！

資源になるものが多く、狭い道もありますが、古い家屋は意外と少なく、案外被害は大きくならないのでは、という意見がありました。一番の資源は白金台四丁目児童遊園で、しっかりした防災倉庫、トイレ、かまどベンチがあり、いざという時にみんなが集まって活動できるスペースになりそうです。その他、目黒通り沿いの薬局、まちなかの消火器なども資源になると考えました。

崩れやすそうな擁壁や、補強された塀がありましたが、回避できる道があったり、建替えに伴って狭い道が拡張されていました。

また、地域の方と話をしてみても、防災への意識が高い方が多い一方、マンションと町会の方々の横のつながりが課題になりそうです。

町会による防災倉庫等の管理が行き届いた白金台四丁目児童遊園→



←建替えに合わせて手前側が拓がってきた道路



本日の講評

～コンサルタント・吉川さんより～

- みなさん、まちの危険を的確に把握されていたと思います。擁壁やブロック塀、空き家など、所々気になる所もありましたが、日頃から目をかけていれば、その対策もできると思います。
- 白金台どんぐり児童遊園以外の大きな空き地をどのように使うか、まちにいる専門家に災害時に活躍してもらうこと、外部の専門家の力を借りること等も大事なテーマになりそうです。
- このまちには、恵まれた空間や今回のように集まれる大勢の方々のように、いざという時に活動できる可能性があります。普段のまちを綺麗にすることが、防災と復興に繋がると考えて、これからも頑張ってください。

まめ知識

～アンケートのご意見より～

港区のブロック塀等除却・設置工事支援事業について

今回の検討やアンケートで「ブロック塀の亀裂が気になった。」といったご意見がありましたので、「ブロック塀等除却・設置工事支援事業」を紹介します！

区内の個人、マンション管理組合、又は中小企業者が所有する敷地内のブロック塀等の除却工事及びそれに伴う新規塀の設置工事を実施する場合、工事費用の一部を助成します。



●ブロック塀等除却・設置工事支援事業のお問合せは、こちらまで！

・港区 街づくり支援部 建築課 耐震化推進担当 電話：03-3578-2304
・ホームページ 環境・まちづくり>住まい>民間住宅等の支援>ブロック塀等除却・設置工事支援事業

震災復興まちづくり訓練 ニュース

【発行】 港区 高輪地区総合支所 まちづくり課
まちづくり係 電話：03-5421-7615

平成30年12月

第3回訓練

被災後の生活の確保や まちの復興方針を考えてみました！

「震災復興まちづくり訓練」は、一般的な防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成30年12月8日（土）、ゆかしの杜・区民協働スペースで第3回が行われました。地域の方々、区職員、専門家、計37名が集まり、4つのテーマ（復興のすすめ方、被災後の生活、道路や住まい等に関する復興まちづくり、各世帯やマンションでの事前対策）のテーブルに分かれて、白金台四丁目のまちの復興のアイデアを出し合いました。



（2～4ページをご覧ください）

どなたも参加できます。
お問い合わせの上、お越しください！

まとめの会（第4回）のご案内

テーマ 普段のまちづくり、地域づくりを見直そう！

日時：平成31年1月16日（水） 18:00～20:30

場所：ゆかしの杜6階 区民協働スペース

内容（予定）：

○第1～3回の成果を振り返ります。

○このまちの復興に備えて、これからのまちづくり・地域づくりで何をしていくとよいか等を話し合ってみましょう！

復興まちづくりの流れと、被災者支援の実例の紹介



出所：東日本大震災アーカイブ宮城（宮城県）



出所：熊本地震デジタルアーカイブ（熊本県）

- 過去の大震災での被災後1か月後の写真を紹介しながら、都市復興マニュアルで考えられている、一般的な復興のすすめ方を学習しました。
- 被災者生活再建支援金など、東日本大震災を例に、暮らしや住まいなどの再建で被災者が受けられた支援策を学習しました。

白金台四丁目地区の復興でやるべきことは？

- 前回までのご意見をもとにした、当地区の復興についての4つのテーマについて、アイデアを出し合いました！

検討したテーマは、



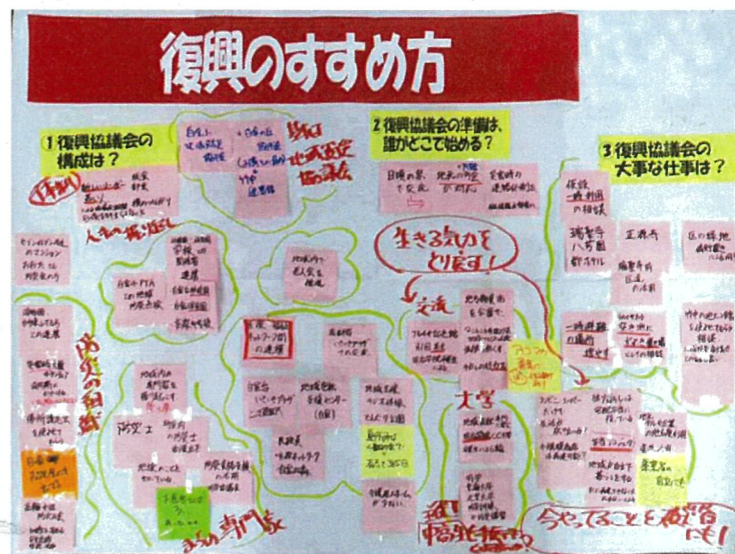
1班 復興のすすめ方

復興協議会は、学区域ごとの地域防災協議会が基になり、日頃活動している災害支援ボランティアや高輪女性防火の会、学校とPTAなどから構成することを考えました。

また、住民の中に様々な分野の専門家がいることから、今から繋がりを作っていくことが必要と考えられます。また、復興協議会は総会と、まちの課題ごとの部会で構成することも考えられます。

お茶会やラジオ体操など、今の地域活動やネットワークが役立つので、これを持続していくことや、明治学院大学などの近隣の大学にも関わってもらおうとよという話が出ました。

復興協議会の大事な仕事のアイデアとしては、空地の一時利用の交渉や弁当プロジェクトが挙げられました。検討を通して、復興協議会の最も大事な仕事は「生きる気力を取り戻すこと」ということが共有されました。



2班 被災後の地区内での生活のしかた

はじめに大地震の発生後、どこに行けば良いかイメージしてみました。

その一例として、1) どんぐり児童遊園に集まり、2) 自宅にいと危険な場合は、

小学校で避難生活を行い、3) 仮設住宅または空き家などを借りる、という流れが示されました。

次に、自宅の危険性をチェックする応急危険度判定、その後の住まいの被害の程度を証明する罹災証明の違いについて学習しました。その際に、地域在住の建築士など専門家による支援体制を日頃から築いておくべきだという提案がありました。

最後に、住民が災害時に混乱しないように、住まいや生活の支援について正確な情報を伝えるための情報ツール（防災無線、インターネット、災害FMなど）の整備に加え、自治会のコミュニティ活動をベースにした口コミの重要性が挙げられました。



3班 ハード面の復興まちづくり

白金台4丁目らしさや復興で大事にしたいものとして、コミュニティーの良さ、イベント、お茶っこ（お茶飲み会）、人の繋がりが挙げられ、それらを維持したいという話がありました。

行き止まり道路・狭い道・高低差の課題については、復興を機会に各エリアを広い道で囲むアイデアを具体的に地図で検討しました。

住まいの建て替えや修繕については、助成制度を上手く使いたい、共同建て替えや再開発などの手法も検討したいという話がありました。

新たな街の魅力づくりについては、電柱の地中化、家の道路側に塀を置かないなどのコミュニケーションが取りやすい建物の工夫、集会室の設置が挙げられました。

これらハード面の復興には、皆さんの合意が必要なので、普段からのまちづくり活動が大切であり、「まちづくり協議会」を立ち上げておくことが大切との話がありました。



4班 ソフト面の復興まちづくり

メンバーのほとんどがマンション住まいで、その対策を話しました。白金台は地盤も良く近年の建築が多いため、大地震でも建物本体は無事ですが、外壁や設備等の部分的被害、住戸内の家具転倒、上下水道・ガス等停止等が起きそうです。

自宅で生活を続けるには、各世帯・マンションで事前対策を考えておきたいものです。その一例を紹介します。

- 壊れやすい設備系は事前からチェックしておきたい。壊れてからだと処置が大変になる。
- 上下水道、ガス等の停止をどう乗り切るか。特にトイレ対策は事前から考えておく。
- 被災後、勝手に遠方に避難するとマンションは修繕等困難になる。事前に対策を講じたい。
- 個々の生活を大事にする方が多いが、防災は住人みんなに関係する。他人まかせにしないで大規模修繕などの機会にマンション内のネットワークを強化しておきたい。
- 地域の町会とマンション自治会、住民同士の交流を行事への参加などを通じて図っておく。普段からの顔見知り関係が災害時の協力につながり、生活の復興に役立つ。



本日の講評 ~首都大学東京・市古先生より~



- 1 班の地震の後に「みんなで生きる気力を取り戻す」という切り口は、皆さんが共感できるのではないのでしょうか。
- 2 班の「応急危険度調査こそ、被災者と支援する建築家の大事な出会いの場になる」という指摘は港区らしいものでした。
- 3 班の崖や行き止まり道路の問題を、道だけで捉えるのではなく、広く再開発を行い、民間敷地を活用して改善するアイデアは印象的でした。
- 4 班は、マンションを中心に給排水などの問題が挙げられました。これらの問題意識を基に、管理組合や居住者の集まりで深められたら良いと思います。
- どの班でも挙がっていましたが、地震後に若い世代に力になってもらえるように、例えば、給水車からもらう水量を決めておくなどの手順書をまとめ、事前に伝えておくことで地域貢献に参加しやすくしておくのはどうでしょうか。
- その他、当地区にある多くの公共施設の上手な使い方や、戸建の良さを取り入れた集合住宅のアイデアがあればと思いました。具体には、スムーズに挨拶や世間話ができるような場があるなど、平時から交流の場になるアイデアです。次の回で、少しでもアイデアを出して実現につなげていければと思います。

震災復興まちづくり訓練 ニュース

【発行】 港区 高輪地区総合支所 まちづくり課
まちづくり係 電話：03-5421-7615

平成31年2月

第4回訓練

復興時の体制や課題を 地域ごとに深めました！

「震災復興まちづくり訓練」は、一般的な防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成31年1月16日(水)、ゆかしの杜・区民協働スペースでまとめの会(第4回)が行われました。地域の方々、区職員、専門家、計34名が集まり、これまでの検討で出された復興時の体制などの課題について、何から事前に準備しておくか、考えてみました。(2~4ページをご覧ください)



①

これまでの訓練の成果を振り返りながら、復興に備えて、普段からの心構えを話し合いました

まとめの会ということで、第1~3回の取り組みを振り返り、これまでのご意見を基にして、以下のテーマで区域ごとに復興に備えて、普段からの心構えを話し合いました。

全ての班で

白金台四丁目地区の復興のすめ方を確認

- 問1 地域が組織をつくって復興に取り組むことは必要か？
- 問2 だれが組織づくりを呼びかけるか？ その拠点はどこ？
- 問3 だれに呼びかけるか？どんな仕事があるか？

震災や復興に備える地域づくり・まちづくり

各班で選んで

- A 在宅避難者の要望把握と生活支援をどう進めるか
- B 地区外避難者の把握や復興情報の伝達をどう行うか
- C 公園や公的施設の被災時活用と地域との関係づくり
- D 集合住宅の防災・復興対策と地域との連携のあり方
- E 事前から取り組む街づくり(問題箇所改善や景観、まちづくり協議会設置等)
- F ふだんからの地域ネットワークづくり(地域組織、事業所、大学、若者等)
- G 復興でも大事にしたい白金台らしさ
- H その他

1班

この地区は人間関係が希薄な土地柄だが、被災後は組織的対応が必要になるので、まず町会・自治会が在宅者の困りごとを、班を通じて把握し、生活支援などに取り組むこと、それをふまえて白金小・白金の丘学園の地域防災協議会で組織的に対応していくことを考えました。しかし、会館がないところでは集まれる拠点をどこに確保するか課題になりました。

また、大きいマンションでは、被災後も自立して暮らせる準備をしておくことや、居住者が四散すると補修や助け合いが困難になるので、管理組合等で対策を考えておく意見が出されました。

事前の取り組みでは、町会に人材(建築士・防災士・看護師など専門的な方や児童生徒や学生などの若者)を結集する体制づくり、日常からまちなかの復興資源(幼稚園や高齢者施設、社寺、研究所や学校、ホテルなど)の活用と地域とのよい関係づくり、自然教育園等の大規模な施設の老朽扉の事前対策などが指摘されました。



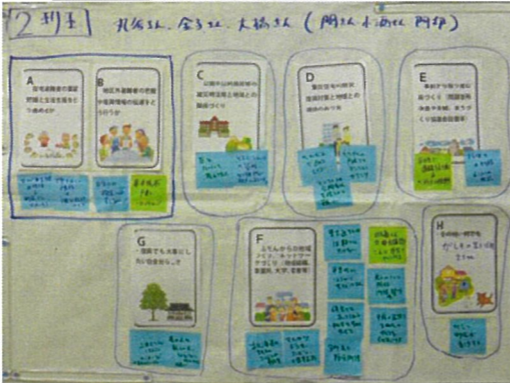
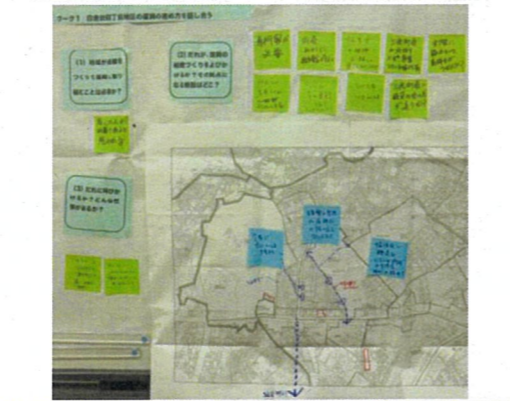
②

2班

復興のための協議会は、町会が中心になり、その他の地域住民や専門家の参加のもとで進める必要があるという意見がありました。その際、町会の中でも区域によって、またマンションと戸建て住宅等でも被害の違いが予想されるため、話し合いがまとまるのか課題として挙げられました。

また、町会会館などが無いため、復興の拠点は、白金台どんぐり児童遊園またはゆかしの杜が拠点になると考えられます。あらかじめ、災害時の拠点の場所やがれきの置き場所などの管理運営のルールを決めておくことが重要です。

復興まちづくりについては、「被災前から続けている盆踊りを被災後にも開催する」「地区内のスーパーやコンビニからの支援物資の供給（事前の協定など）」「町会エリアの境界沿いの東大医科研の敷地側に避難路を整備する」「白金台らしさを大事にしつつ、危険な細街路のセットバックによる拡幅（大規模な再開発ではなく）」などのアイデアが出されました。



3班

復興の組織について、マンションでは被災時に立ち上がることも考えられ、それらを繋ぐことが大事で、最初の呼びかけは、最も顔が知られている町会が行わざるを得ないのではないかと意見がありました。

また、復興が進む中で、人の出入りが相当あるはずなので、お互いの顔が見えるように繋ぐことも大事という意見も出されました。

この組織は情報収集と発信が大事で、白金小を拠点とし、併せていきいきプラザやゆかしの杜も活用していけないかという意見が出されました。

この組織では「片づけ隊」を組織し、口コミで頼みたい人や支援したい人が繋がり、被災した方に希望を与えられるのではないかと思います。復興が進むにつれて、様々な生活支援に活動が変わっていくことも考えられます。

その他、ペットとの生活を例に、様々な問題を抱えている方々にお互い配慮しながら頑張っていくかという話がありました。



4班

復興を進める組織は、既に活動している地域防災協議会が中心となります。そこで、今回のような復興まちづくり訓練をすることが良いとの意見が出されました。誰が呼びかけるのかについては、区に声掛けをしてもらいたい、この活動の中でリーダーが自然に生まれるのが望ましいといった意見がありました。課題としては、戸建てと集合住宅の住民が分かれてしまうことが挙げられました。

「地域のネットワーク作り」では、高校のクラブやボランティアグループとの連携、専門家が学生を連れてくる機会などが挙げられました。

「集合住宅の防災復興対策と地域連携」では、戸建ての課題を含めて互いに共有することが大切と指摘されました。また、「事前から取り組む街づくり」では、条例によるまちづくり協議会が良いが、どのようにすれば良いか等の情報が必要で、将来の街を考える中で防災活動を取り入れると、戸建てと集合住宅と一緒に話し合うことができる等の意見が出されました。



本日の講評


～首都大学東京・市古先生より～

- 組織が必要か、誰がそれを担うのかというテーマでこんなに議論が白熱したのは、この地域に色々な意味で力や可能性があるのだと思います。
- 復興にあたって被災後に小学校に関係者が集まり、困っている方や支援の情報を共有する場を、みなさんが必要と考えていたように思います。
- ご意見にもあった、既にあるコミュニティカフェなどで、今から災害時の情報を広め、共有していくのも良いことだと思います。
- 更に、リーダーを支える仕組み、サポートする参謀役のあり方も検討していく必要がありそうです。



港区まちづくり条例を活用したまちづくりの仕組みのご紹介

港区では、地域の課題は地域で解決し、地域の発意と合意に基づくまちづくりを推進するため、地域主体のまちづくり活動を支援しています。例えば、今回検討されたアイデアを取り組んでみるのに、活用してみてもはどうでしょうか？

- | | | | | |
|--|--|--|---|---|
| STEP1
みんなでまちについて考える
専門家を中心に勉強会で | STEP2
活動の輪を広げる
仲間を増やしてまちづくり組織登録 | STEP3
将来像を共有する
地区の将来像、基本理念、目標（地区まちづくりビジョン）を登録 | STEP4
まちのルールをつくる
取決めごとを地区まちづくりルールとして作成 | STEP5
まちづくりを実践する
 |
|--|--|--|---|---|

